



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

安心・安全な医療の提供 これからの下関市立病院



んには。市長の中尾友昭です。下関市内には市民病院と豊浦病院、豊田中央病院の三つの市立病院があります。市民病院(向洋町一丁目)は、平成24年度から地方独立行政法人に移行し、35の診療科と436床の病床数がある下関医療圏の中核病院で、地域がん診療連携拠点病院や災害拠点病院として地域医療を支えています。現在、東側駐車場跡地に地域医療センター(仮称)を建設中です。透析センターを32床、外来化学療法室を12床、緩和ケア病棟を20床整備し、がん医療の充実を図ります。今年6月から7対1看護配置基準へ移行し、手厚い看護体制により急性期医療にも貢献し、救急医療や高度医療など安心・安全な医療の提供にも努めています。

とめました。今年1月に同会から病院譲渡の申し出を受け、協議を重ね、平成28年4月1日に譲渡する基本協定を8月に締結しました。地域の皆さんに愛される素晴らしい病院を整備していただけるものと期待しています。

豊浦病院(豊浦町大字小串)は、平成18年度から指定管理者の山口県済生会が管理運営を行っています。17の診療科と275床の病床数がある豊浦・豊北地域の中核的な病院で、救急医療をはじめ、地域医療の充実に取り組んできました。施設の老朽化が進んでいることから、昨年度、山口県済生会と共同で豊浦病院整備基本計画を取りま

豊田中央病院(豊田町大字矢田)は、7診療科と71床の病床数がある病院で、角島と殿居の診療所とともに、下関市北部地域での中核的な医療を担っています。この地域は高齢化率が高いことから、訪問診療や訪問リハビリテーションなど在宅医療に積極的に取り組んでいます。眼科診療では、先進医療機器を導入し、白内障手術に加え硝子体手術にも対応できる体制を整えるなど充実を図り、良質な医療を提供しています。

少

子・高齢化が進み、医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれます。国では、2025年をめどに、地域の包括的な支援・サービスの提供体制の構築などを推進しています。それぞれの病院が地域の拠点病院として、今後も市民の安心、安全を第一に、皆さんに親しまれ、信頼される病院を目指し、職員と共に頑張っています。

市民病院に建設中の地域医療センター(仮称)完成予想図



今回は市内在住の岡田邦弘さんの作品。中尾市長の似顔絵を募集しています。作品と、住所、氏名(ペンネーム可)、電話番号を、広報広聴課(〒750-8552)市南内南部町1番1号へお寄せください。

菊川町の歌野ダム上流にある歌野清流庵は、江戸時代に楮栽培の入植地となった歌野地区に残る農家住宅です。四間取りの平面や、茅葺、寄棟造の屋根を支える架構は、当地の典型的な農家の造りを伝えています。



ダム建設による離村に伴い、楮栽培集落の面影は昭和50年代までに姿を消しました。唯一保存された歌野清流庵は、農機具の展示を行う「郷土文化保存伝習施設」を経て、平成16年に発足した「歌野の自然とふれあう会」により、農村景観や農村文化などの地域資源を継承するための活動拠点として活用されています。必要な構造補強や整備が行われ、現在は飲食店も営まれています。

来春、歌野清流庵では屋根葺替が予定されています。元来、「結」と呼ばれる集落住民総出の共同作業であった屋根葺替は、過疎化に伴う担い手の減少により、近年は各地で住民とボランティアの協働により維持されるようになりました。歌野清流庵も例外ではありません。今月19日に行われる稲刈りや来春の屋根葺替への参加を通して、新しい「結」の一端を体験してみませんか。



※登録有形文化財…地域のシンボルとなっている建物など、特にその保存と活用が必要とされる身近な歴史的建造物のうち、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録した建築物や土木構造物などのこと